

1. 背景

福岡市では、令和4年度より、福岡市美術館やアジア美術館のこれまでの取組みをさらに発展させ、彩にあふれたアートのまちを目指して、「Fukuoka Art Next」(FaN)に取り組んでいる。

その中核施設となるアジア美術館は、1999年にアジアの近現代美術を系統的に収集し展示する世界に唯一の美術館として開館し、国内外の美術関係者からの評価は高く、その先駆的な取り組みによって、市民の貴重な財産となっている。しかしながら、その価値や魅力を広く市民に届け切れておらず、十分に活かしきれていない。

このため、令和5年度より魅力向上の検討を行っており、今回、魅力向上の検討状況と今後の取り組みについて報告するもの。

2. 魅力向上の検討状況

(1) アジア美術を取り巻く環境

- アジアから世界に通じる作家が数多く登場しており、シンガポールや香港など、アジアを中心にアジア美術をコレクションする美術館が増えている
→ アジア美術が世界的に注目されている状況にある

(2) アジア美術館の現状

① コレクションの状況

- 1970年代からの収集により、アジア美術を系統的に捉えることができ、その数は約5,000点にのぼる
- 長年にわたる収集は、作品の価値を向上させ、他館の追随を許さない
→ 国内外の美術関係者からの評価は高く、これを市の財産、観光資源として有効活用することが重要

作者名：方力鈞(ファン・リヂュン)



作品名：シリーズ 2 No.3

② 集客の状況

- コレクション展の観覧者数は、年間約5万人で推移しているが、美術館や博物館の約10万人と比較すると劣っており、コレクションでの十分な集客ができていない
- しかしながら、市民アンケート(2頁)にもあるように、アジア美術に触れるきっかけがあれば、関心が高まる
→ アジア美術に触れる機会を増やすことが重要

③ 施設の状況

- 開館から25年が経過し、展示壁面や照明設備など、設備の老朽化が見られる
- コレクションの増加に伴い、開館当初約1,000点だった作品が約5倍に増え、収蔵スペースが手狭になっている
- アジア美術の系統的な展示や大型作品を魅力的に展示するには、展示スペースが手狭になっている
- 市民アンケート(2頁)にもあるように、わざわざ行かないといけない場所にある、気軽な気持ちで訪れる施設ではないと認識されている
→ 機能更新と拡充が望まれる

(3) 集客力のある美術館の状況

<金沢21世紀美術館の事例>

- 市の中心部で、観光名所に隣接した場所に位置している
- 屋外に写真映えする作品を展示するなど、美術館のシンボルとなっている
→ 集客する美術館は、好立地でシンボルとなる屋外作品を有する



建物外観

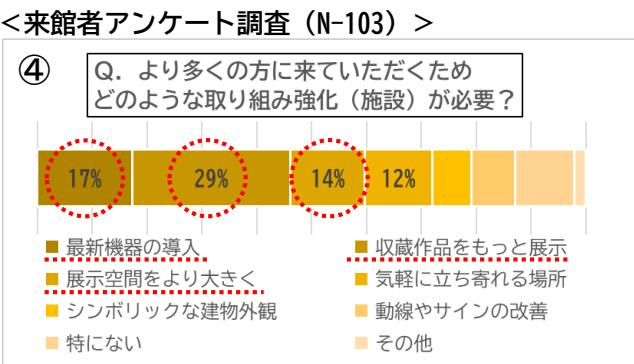
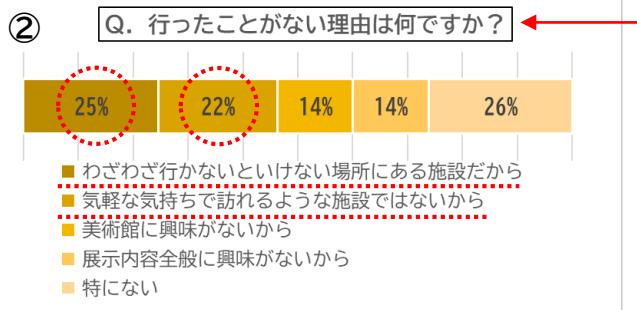
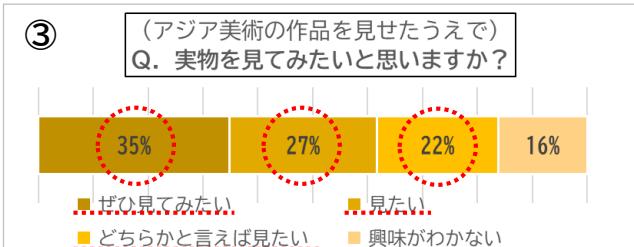
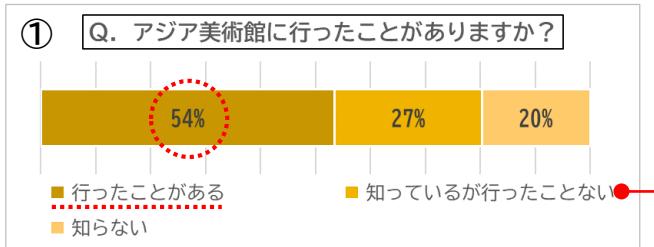


スイミング・プール
レンド・ド・エリック

(4) 市民アンケート調査

- アジア美術館の現状を把握するため、市民アンケートを実施した(令和5年11月)

<市民街頭アンケート調査 (N-1,000) >



(5) 課題の整理と解決の方向性

<主な課題>

- 作品の価値や魅力を市民に十分に届け切れていない
- 市民や観光客にとって、気軽に立ち寄る場所と認識されていない
- 設備の老朽化により機能が低下している
- 展示スペースや収蔵スペースが手狭になっている

<解決の方向性>

⇒ コレクション展の充実(課題①、②)

- 市民が行きたくなるコレクション展の企画により、アジア美術に触れてもらうことで、価値や魅力を伝える

⇒ 展示・収蔵機能の拡充(課題②、③、④)

- コレクションを十分に活かした展示ができ、気軽に立ち寄り鑑賞するための展示機能の拡充
- コレクションを適切に保存管理するための収蔵機能の拡充
- 展示機能については、警固公園地下駐車場の後利用の照会に対して、当該地は、都心の一等地に位置し、集客が見込めるなどを踏まえ、拡充先の有力候補として活用したい旨回答した**

3. 今後の取り組み

課題解決の方向性を踏まえて、展示の工夫や効果的なプロモーションなどによるコレクション展の充実によりアジア美術館の魅力向上を図るとともに、警固公園地下駐車場を有力候補とした、展示機能の拡充に関する調査検討を進めていく。